

高齢者が捉える生活環境についての調査研究（第3報）

—ソーシャルサポートとモラルとの関連性—

お茶の水女大生活科学 袖井孝子 工藤由貴子 ○平野順子

【目的】前大会での発表*では、都市に居住する高齢者が評価する地域環境と、高齢者の社会的環境とモラルとの関連性に着目し、様々な属性要因・社会的要因・地域要因とモラルとの関連について明らかにされた。そこで、本研究ではその結果を受け、高齢者が行っているソーシャルサポート授受に着目し、彼らが第一次集団との間で行っているサポートについてより深く考察し、サポートの互酬性によって高齢者のモラルがどのように影響を受けているかについて明らかにすることを目的とする。

【方法】第1次調査は第1、2報と同じ。それに加え本研究では第2次調査として事例調査を行った。対象は第1次調査において面接調査への協力を了承した都内在住の在宅の65歳以上の男女19名。各社会関係との付き合いについての自由回答式の面接調査を行った。

【結果】(1)統計調査の結果：①サポートの内容を情緒・手段・介護に分けると、情緒的サポートは広範囲に渡る相手とのサポートの授受を行っているが、他のサポートは子どもや配偶者など家族に特化していた。②男性では子ども・友人とのサポート授受において与えたよりも多く受けた時にはモラルは低下するが、女性は授受における量のアンバランスはモラルに影響を与えなかった。(2)事例調査の結果：①高・低モラル群では、モラルに影響を与える要因は、サポートの授受の内容ではなくその動機づけに違いが見られた。②血縁者とそれ以外の者とでは異なった互酬性規範があり、その規範にそってのサポートの授受がモラルを高める要因となっていた。